



大学院 Newsletter

2023.10

AI 特別講座の開催と情報科学領域の紹介

特別講座『ChatGPT』などの AI 技術がもたらす産業革命と社会に及ぼす影響

10月6日(金)に本学鶴岡キャンパスにて特別講座「『ChatGPT』などの AI 技術がもたらす産業革命と社会に及ぼす影響」を開催し、本学のノヴァコフスキ・カロール講師と植田和憲准教授が講演しました。来場とオンラインを合わせて 50 名を超える方にご参加いただきました。

ノヴァコフスキ講師は「AI 技術の現状と課題」と題し、「ChatGPT」などの生成 AI について、AI の回答が真実性・信頼性に欠ける場合があることや、学習データの著作権問題などについて解説。また、創造的な仕事を AI だけに頼ることは、人間の創造性を低下させる懸念があることをお話いただきました。

まとめ

- AI 技術は急速に進歩しており、利活用できる知的作業の範囲が広がっている
- 課題もある：
 - ・ 真実性・信頼性
 - ・ 偏見・差別的な表現
 - ・ 著作権をめぐる問題
 - ・ 等々
- 一部のタスク（例えば、新製品の開発といった創造的活動）では、AI は既にほとんどの人間よりも優れたパフォーマンスを発揮できるとみられる
- 一方、事実やデータに基づく正確な推論を必要とするタスク（例えば、ビジネス上の問題解決）では、いまだに人間がAIを上回っている
- 創造的な仕事をAIだけに頼ることは、集団全体（企業・人類）の創造性を低下させるおそれがある



AI 技術がもたらすもの(まとめ)

- ・ 「人」→人と区別のつかない AI や生成物
- ・ セキュリティリスク →なりすましや詐欺
- ・ ドッベルゲンガー →分身・なりすまし
- ・ 高速道路 →ツールとしての強力なAI技術
- ・ Wikipedia →不正確な情報を含むもの
- ・ ウソをウソと見抜く力 →不正確な情報を見抜く目
- ・ 英語力・文章力 →生成 AI の成果物の見極め



植田准教授からは「AI 技術がもたらすもの」と題して、AI 術が詐欺などに応用されることにより、セキュリティリスクが高まっていると説明いただきました。生成 AI の存在を前提として利活用していくスキルを身に付けることの重要性を考える機会となりました。

参加者からは「ChatGPT」の活用方法などについて質問が多数寄せられ、関心度の高さがうかがえました。

大学院で学べる「情報科学領域」

本大学院の修士課程では、4つの研究領域について学ぶことができます。その中の情報科学領域では、上記講座でお話したノヴァコフスキ講師や植田准教授の他に 4 名の教員から指導を受け、研究することができます。

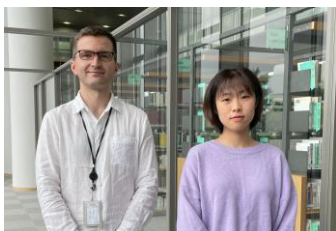
情報科学領域で学べる 専門科目

- ・ 公益情報システム
- ・ 人工知能特論
- ・ 多変量解析
- ・ プログラミング特論
- ・ 人間工学
- ・ 情報数理
- ・ 自然言語処理

修士課程 2年 田 雨冉さん

研究指導教員 ノヴァコフスキ カロール講師(自然言語処理)

田さんの研究テーマは、中華人民共和国の少数民族「ナシ族」の独特の文化のひとつである「トンパ文字」の情報処理技術による解析です。象形文字の 1 つ 1 つに、アノテーション(意味情報付け)をしています。



ノヴァコフスキ講師は、アイヌ語のための自然言語処理技術の開発に関する研究を行っており、演習では田さんの研究アドバイスを行っています。

修士課程 1年 榊原一心さん

研究指導教員 神田直弥教授(交通心理学・人間工学)

榊原さんは小中学生の情報教育の動機付けを研究テーマにしています。先行研究が多数ある「教育学」ではなく、「心理学」から仮説の立案と検証に取り組んでいます。

神田教授は、専門である「心理学」の視点から、より良い教育の在り方を模索している榊原さんの研究をサポートしています。

